

林業に、
空をつかえ。



最先端技術で、山主にうれしい驚きを。児湯広域森林組合（宮崎県・西都市）

■ **森が生きているがゆえの課題。** 杉の生産量25年連続日本一を誇る宮崎県。県内に位置する児湯広域森林組合では、森林所有者に伐採等のプランを提案し、集約して施業を行う「提案型集約化施業」を進めています。しかし、その資料となる森林簿には、精度の面で大きな課題がありました。「地形や条件で森林の生育は常に変わるので、山で実際に整備を始めると、想定と異なるケースがあります。そのため山主さんへは、保守的な収益見積もりを出さざるを得ません」そう語るの、代表理事組合長の長友さん。「もっと高精度の見積もりを出せば理想的ですが、そのための現地調査には膨大な時間とコストが必要です」この現況を打開すべく始動したのが、最先端の技術を駆使し、上空から森林の資源情報を確認していくというプロジェクトです。

■ **森のプロフィールを、上空から可視化。** プロジェクトの内容は、大きくふたつ。まず、県から提供される航空写真を分析・加工して森林の立体画像をつくること。そして、より詳細な情報が必要な森林に対して航空レーザー計測を行うこと。これらを組み合わせると、木の本数から体積まで、精度の高い情報を算出できます。組合と県の協力の成せる技です。「画面上で施業のシミュレーションができるので、何日かかる現地作業を、一日に短縮することも可能になるはず。山主さんへの還元をよりふやしていくことが期待できます」と長友さん。宮崎県環境森林部主幹の川畑さんは「県の写真にもコストがかかっていますから、様々な使い方ができるなら、我々も嬉しい。今回の事例で実証できたら、他の地域へも活用を広げてみたい」と前向きに語ります。

■ **新しい技術が、日本の山を強くする。** 近年の日本の林業には、国産材の低価格化や、世代交代が原因で、森林所有者の山への関心が薄れているという問題があります。「中には自分の所有地がどこまでなのか解らないという方もいます。最先端の技術を駆使したこのプロジェクトで、山主さんに関心と期待を持ってもらいたい。山を育ててみようと思う方がふえれば、地域の環境保全にも繋がります。目指しているのは、活発で持続可能な林業です。」長友さんの想いは、この地の杉のようにまっすぐでした。



山主 長友さん(左) 児湯広域森林組合 長友さん(右)



一般社団法人
農林水産業みらい基金

未来は、いつだって、現場から生まれる。私たち農林水産業みらい基金は、JA(農業協同組合)・JF(漁業協同組合)・JForest(森林組合)グループの一員である農林中央金庫によって設立されました。

詳しくは 検索
<http://www.miraikin.org/>

